

シラバス

——平成 28 年度(2016)——

工学専門編

Kyushu Institute of Technology
School of Engineering

九州工業大学 工学部

シラバス

——平成 28 年度(2016)——

工学専門編

序 文

本シラバスは、下記に列挙する項目を通して工学部における授業、学習と学修目標に関する情報をまとめたものです。

- (1) 図書館の利用法
- (2) 各学科における学修目標
- (3) 各科目間の関連、科目の系統図
- (4) 授業の内容と受講の仕方、時間外学習への言及
- (5) 成績評価の方法

皆さん方が受講すべき標準的な科目は時間割に組み込まれていますので、時間割にある授業を受講し単位を取得すれば自動的に卒業要件単位は充足されると思われます。しかし、もう1歩踏み込んで、工学部の学生としてどのように工学のスキルを身につけ、どのように自分自身のキャリアを伸ばしていくか、自問しながら学部4年間を過ごす意識が重要です。本シラバスは皆さん方のそのような自発的な学習における重要な情報源です。毎年、担当の教員による多少の手直しと内容の改善を行いながら今日のシラバスに整理されており、工学部の教育内容を一目で把握できます。教員による授業・指導と本シラバスの活用、そして最も重要である皆さん方の努力によって、4年後には皆さん方が学修目標を十分に達成され、立派なエンジニアとして社会に船出してもらうことを期待しています。

なお、シラバス作成時期と授業の実施時期の関係で、担当者等一部を変更することもあります。

平成 28 年 4 月

九州工業大学工学部

教員編成表

(工学部担当教員)

学長 尾家 祐二 ・ 工学部長 芹川 聖一

(H 28.4.1 現在)

氏名	職名
機械知能工学科	
赤星保浩	教授
梅景俊彦	教授
大屋勝敬	教授
金亨燮	教授
黒木秀一	教授
坂本哲三	教授
橘武史	教授
坪井伸幸	教授
鶴田隆治	教授
野田尚昭	教授
平木講儒	教授
松田健次	教授
水垣善夫	教授
宮崎康次	教授
森直樹	教授
米本浩一	教授
河部徹	准教授
吉川浩一	准教授
黒島義人	准教授
相良慎一	准教授
清水浩貴	准教授
タン ジュークイ	准教授
長山暁子	准教授
西田健	准教授
谷川洋文	助教
田丸雄摩	助教
西川宏志	助教
新田益大	助教
藤川貴弘	助教

氏名	職名
松尾一矢	助教
矢吹智英	助教
建設社会工学科	
佐久間 治	教授
陳沛山	教授
永瀬英生	教授
廣岡明彦	教授
松田一俊	教授
山口栄輝	教授
吉武哲信	教授
穴井謙	准教授
伊東啓太郎	准教授
鬼束幸樹	准教授
合田寛基	准教授
重枝未玲	准教授
寺町賢一	准教授
徳田光弘	准教授
日比野誠	准教授
電気電子工学科	
池永全志	教授
和泉亮	教授
大村一郎	教授
芹川聖一	教授
白土竜一	教授
中藤良久	教授
匹田政幸	教授
松本聡	教授
水波徹	教授
三谷康範	教授
市坪信一	准教授

氏名	職名
大塚 信也	准教授
河野 英昭	准教授
小迫 雅裕	准教授
張 力峰	准教授
豊田 和弘	准教授
中司 賢一	准教授
松平 和之	准教授
水町 光徳	准教授
山脇 彰	准教授
渡邊 政幸	准教授
今給黎 明大	助教
佐竹 昭泰	助教
鶴巻 浩	助教
野林 大起	助教
楊 世淵	助教
渡邊 晃彦	助教
応用化学科	
横野 照尚	教授
北村 充	教授
清水 陽一	教授
竹中 繁織	教授
柘植 顕彦	教授
中戸 晃之	教授
山村 方人	教授
荒木 孝司	准教授
植田 和茂	准教授
岡内 辰夫	准教授
佐藤 しのぶ	准教授
坪田 敏樹	准教授
村上 直也	准教授
上村 直	助教
下岡 弘和	助教
高瀬 聡子	助教
馬渡 佳秀	助教

氏名	職名
毛利 恵美子	助教
森口 哲次	助教
マテリアル工学科	
秋山 哲也	教授
石丸 学	教授
恵良 秀則	教授
松本 要	教授
北村 貴典	准教授
高須 登実男	准教授
徳永 辰也	准教授
堀部 陽一	准教授
山口 富子	准教授
横山 賢一	准教授
伊藤 秀行	助教
堀出 朋哉	助教
総合システム工学科	
奥山 圭一	教授
鎌田 裕之	教授
小森 望充	教授
酒井 浩	教授
鈴木 智成	教授
鈴木 芳文	教授
趙 孟佑	教授
出口 博之	教授
中尾 基	教授
本田 崇	教授
美藤 正樹	教授
浅海 賢一	准教授
井上 創造	准教授
岩田 稔	准教授
大門 秀朗	准教授
小田 勝	准教授
木村 広	准教授
坂井 伸朗	准教授

氏 名				職 名
孫			勇	准教授
竹	澤	昌	晃	准教授
中	村	和	磨	准教授
野	田	尚	廣	准教授
花	沢	明	俊	准教授
藤	田	敏	治	准教授
三	浦	元	喜	准教授
若	狭		徹	准教授
脇	迫		仁	准教授
渡	辺	真	仁	准教授
花	澤	雄	太	助 教
増	井	博	一	助 教

目 次

図書館利用案内

I-1. 工学系総合科目

工学と環境	1
工学と環境	1
工学倫理・安全工学A	2
工学倫理・安全工学B	3
工学倫理・安全工学C	4
経営管理・知的財産権	5
サイエンス工房	5
キャリア形成入門	6
インターンシップ実習	7
グローバル教育実践実習	7
理数教育体験 I, II	8
宇宙工学入門	8

I-2. 工学系他分野科目

機械知能工学概論	9
建設社会工学概論	10
電気電子工学概論	10
応用化学概論	11
マテリアル工学概論	11
総合システム工学概論	12
生命体工学概論【水曜 5 限】	13
生命体工学概論【木曜 1 限】	13

II. 機械知能工学科

系統図	15
学習・教育到達目標	18

工学基礎科目

解析学 I	19
解析学 II	19
線形数学 I	20
線形数学 II	20
解析学 III	21
複素解析学	21
統計学	22
物理学 I	22
物理学 II A	23
物理学 II B	24
物理学実験	24
解析力学・剛体力学	25
基礎量子力学	26
化学 I	27
化学 I	28
化学 II	29
化学実験 B	30
図形情報科学	30
数値形状モデリング	31
機械知能工学入門	32
機械構造の力学入門	32

流れ学基礎	33
計測制御基礎	34
情報リテラシー	35
情報 PBL	35
情報処理基礎	36
情報処理応用	36
情報処理応用	37

工学専門科目

材料力学 I	38
材料力学 II	39
機械材料学	40
弾塑性力学	40
材料強度	41
塑性加工学	41
生産工学基礎	42
機械工作法 I	43
機械工作法 II	43
生産ソフトウェア工学	44
流れ学	44
流体力学	45
熱流体工学	46
エネルギー変換工学	47
熱力学 I	47
熱力学 II	48
伝熱学	49
伝熱学	49
制御工学基礎	50
機械宇宙システムの制御	50
データ処理工学	51
電機基礎理論 I	52
電機基礎理論 II	53
振動工学	54
制御数学	55
制御系解析	56
制御系構成論 I	57
制御系構成論 II	58
センサ工学 I	59
センサ工学 II	60
知的画像処理	60
プロセス制御	61
電子回路基礎	61
メカトロニクス I	62
メカトロニクス II	63
ロボット制御工学	63
知能制御	64
デジタル制御	65
知能制御応用	66
情報処理システム I	66
情報処理システム II	67
宇宙工学 I	67
燃焼工学	68

宇宙工学Ⅱ	68
メカと力学	69
機械力学Ⅰ	69
機械力学Ⅱ	70
設計工学Ⅰ	70
設計工学Ⅱ	71
トライボロジー	71
統計力学	72
量子力学	72
原子力概論	73
数値解析法	74
数値解析法	75
システム工学	75
生体工学概論	76
自動車工学	77
機械工作法実習Ⅰ	78
機械工作法実習Ⅱ	78
機械知能工学基礎実習	79
三次元CAD入門	79
デジタルエンジニアリング演習	80
設計製図Ⅰ	80
設計製図Ⅱ	81
機械工学PBL	82
宇宙工学PBL	83
機械工学実験Ⅰ	84
機械工学実験Ⅱ	85
制御数学演習	85
制御系解析演習	86
制御系構成論Ⅰ演習	86
制御系構成論Ⅱ演習	87
制御工学実験Ⅰ	88
制御工学実験Ⅱ	89
制御工学実験Ⅲ	90
知能制御PBL	91
機械系学生のための英文理解と表現Ⅰ	92
機械系学生のための英文理解と表現Ⅱ	92
科学技術英語Ⅰ	93
科学技術英語Ⅱ	93
卒業研究	94
卒業研究	95
学外工場実習	95
学外見学実習	96
学外見学実習	96

Ⅲ. 建設社会工学科

系統図	97
学習・教育到達目標	99
工学基礎科目	
解析学Ⅰ	100
解析学Ⅱ	100
線形数学Ⅰ	101
線形数学Ⅱ	101
解析学Ⅲ	102
複素解析学	102
統計学	103
物理学Ⅰ	103
物理学ⅡA	104
物理学ⅡB	105
物理学実験	105
解析力学・剛体力学	106
化学Ⅰ	107

化学Ⅱ	107
化学実験B	108
図形情報科学	108
数値形状モデリング	109
建設社会工学演習	110
建設総合演習	110
建設力学基礎及び演習	111
水理学基礎及び演習	112
公共計画基礎	113
建築設計製図基礎	113
情報リテラシー	114
情報PBL	114
情報処理基礎	115
情報処理応用	115

工学専門科目

建築計画Ⅰ	116
建築計画Ⅱ	116
建設環境工学	117
建設設備	117
建築法規	118
建築・環境デザインの歴史と展開	118
建築一般構造Ⅰ	119
建築一般構造Ⅱ	120
建設施工と積算	121
国土計画論	122
地域計画と景域デザイン	123
都市計画	124
道路交通工学	124
都市交通計画	125
水理学Ⅰ	125
水理学Ⅱ	126
河川工学	127
海岸・港湾工学	128
水環境工学	129
防災情報工学	130
地盤工学基礎及び演習	131
地盤工学	132
地盤耐震工学	133
構造物基礎と地下空間	134
構造力学Ⅰ	135
構造力学Ⅱ	136
建設振動学	136
建設材料施工学	137
コンクリート構造工学Ⅰ	138
コンクリート構造工学Ⅱ	138
維持管理システム	139
統計力学	140
量子力学	140
原子力概論	141
建設数学	142
総合ランドスケープ演習	143
測量学Ⅰ	144
測量学Ⅱ	145
測量学実習	145
建設工学実験Ⅰ	146
建設工学実験Ⅱ	147
建築設計製図Ⅰ	148
建築設計製図Ⅱ	148
建築設計製図Ⅲ	149
建築設計製図Ⅳ	149
建設構造設計製図	150

技術英語 I	151
技術英語 II	151
卒業研究	152
学外実習	152

IV. 電気電子工学科

系統図	153
学習・教育到達目標	155

工学基礎科目

解析学 I	156
解析学 II	156
線形数学 I	157
線形数学 II	157
解析学 III	158
複素解析学	158
統計学	159
物理学 I	159
物理学 II A	160
物理学 II B	161
基礎量子力学	161
物理学実験	162
化学 I	163
化学 I	164
化学 II	165
化学 II	166
化学実験 B	167
量子力学	168
統計力学	169
原子力概論	169
図形情報科学	170
数値形状モデリング	171
情報リテラシー	172
情報 PBL	172
情報処理基礎	173
情報処理応用	173

工学専門科目

電気電子工学実験入門	174
電気電子工学序論	175
電気電子工学実験 I	176
電気電子工学実験 II	177
電気電子工学実験 III A	178
電気電子工学実験 III B	179
電気電子工学 PBL 実験	179
電磁気学 I	180
電磁気学 II	181
電磁気学 III	181
電磁気学演習	182
電磁気学 IV	182
電気回路 I	183
電気回路 II	183
電気回路 III	184
電気回路演習	185
電気回路 IV	185
半導体デバイス	186
電子回路 I	186
電子回路 II	187
電子回路応用演習	188
論理回路	189
数値計算法	190
エネルギー基礎工学	191
プログラミング技法	192

電気電子計測 I	192
電気電子計測 II	193
システム工学	194
情報理論	195
制御システム工学	195
信号処理 I	196
専門英語 I	197
専門英語 II	198
卒業研究	198
特別講義	199
学外工場実習見学	200
電気エネルギー伝送工学	200
電気機器	201
電気電子物性	202
電力システム工学	202
パワーエレクトロニクス	203
電気電子材料	204
集積回路工学	205
電力応用	205
電気法規・施設管理	206
電機設計法	206
信号処理 II	207
通信基礎	208
ネットワークインターフェース	208
電波工学	209
光通信工学	209
通信ネットワーク	210
組み込みオペレーティングシステム	210
センサ・インターフェース工学	211
移動通信及び法規	212
デジタル回路設計法	212
コンピュータアーキテクチャ	213
アナログ回路設計法	214
システム LSI	215
組み込みシステム	216

V. 応用化学科

系統図	217
学習・教育到達目標	218

工学基礎科目

解析学 I	219
解析学 II	219
線形数学 I	220
線形数学 II	220
解析学 III	221
複素解析学	221
統計学	222
物理学 I	222
物理学 II A	223
物理学 II B	224
基礎量子力学	224
物理学実験	225
化学 I A	226
化学 II A	227
化学実験 A	228
無機化学基礎	228
有機化学基礎	229
物理化学 I	230
物理化学 II	231
応用化学自由研究	231
応用化学入門	232

図形情報科学	233
情報リテラシー	233
情報 PBL	234
情報処理基礎	234
情報処理応用	235
応用化学基礎実験	235

工学基礎科目

有機化学Ⅰ	236
有機化学Ⅱ	237
有機化学Ⅲ	237
反応有機化学	238
有機工業化学	239
有機機器分析	240
高分子合成化学	241
高分子機能化学	241
生物有機化学	242
化学工学Ⅰ	243
化学工学Ⅱ	244
化学工学Ⅲ	245
反応工学	246
コンピュータ解析Ⅰ	247
無機化学Ⅰ	248
無機化学Ⅱ	249
無機化学Ⅲ	250
機能性材料化学	251
コンピュータ解析Ⅱ	252
物理化学Ⅲ	252
物理化学Ⅳ	253
物理化学Ⅴ	254
分析化学	255
生物物理化学	256
統計力学	256
量子力学	257
原子力概論	258
計測制御	259
応用化学実験 A	259
応用化学実験 B・PBL	260
応用化学実験 C	261
科学英語Ⅰ	262
科学英語Ⅱ	263
卒業研究	263
見学実習	264

VI. マテリアル工学科

系統図	265
学習・教育到達目標	266

工学基礎科目

解析学Ⅰ	267
解析学Ⅱ	267
線形数学Ⅰ	268
線形数学Ⅱ	268
解析学Ⅲ	269
複素解析学	269
統計学	270
物理学Ⅰ	270
物理学ⅡA	271
物理学ⅡB	272
基礎量子力学	272
物理学実験	273
化学Ⅰ	274
化学Ⅱ	275

化学実験 B	275
図形情報科学	276
情報リテラシー	276
情報 PBL	277
情報処理基礎	277
情報処理応用	278

工学専門科目

マテリアル工学基礎	278
材料組織学Ⅰ	279
材料組織学Ⅱ	279
計算材料学Ⅰ	280
格子欠陥学	280
材料物性学	281
金属強度学	281
回折結晶学	282
材料表面工学	282
材料物理化学	283
材料熱力学基礎	283
材料熱力学	284
反応速度論	284
電気化学	285
製錬工学	285
材料プロセス	286
接合工学	286
塑性加工学	287
材料力学	287
材料物理数学	288
破壊力学	288
計算材料学Ⅱ	289
鉄鋼材料学	290
非鉄金属材料学	290
金属間化合物材料学	291
セラミック材料	291
固体物性論	292
電子・磁性材料	292
統計力学	293
量子力学	293
原子力概論	294
マテリアル工学入門	295
設計製図	296
フロンティア工学実習	296
マテリアル基礎実験	297
マテリアル工学 PBL	298
専門英語Ⅰ	298
専門英語Ⅱ	299
外国語文献講読	299
卒業研究	300
見学実習	301

VII. 総合システム工学科

系統図	303
学習・教育到達目標	304

工学基礎科目

解析学Ⅰ	305
解析学Ⅱ	305
線形数学Ⅰ	306
線形数学Ⅱ	306
解析学Ⅲ	307
複素解析学	307
統計学	308
代数学	308

物理学Ⅰ	309	総合システム工学実験Ⅱ	345
物理学ⅡA	310	卒業研究	345
物理学ⅡB	310	特別講義	346
基礎量子力学	311		
基礎数理総合演習Ⅰ	312		
基礎数理総合演習Ⅱ	312		
化学Ⅰ	313		
化学Ⅱ	313		
図形情報科学	314		
総合システム工学入門PBL	315		
実践プログラミングPBL	315		
計算数理工学PBL	316		
総合システム工学PBL	317		
物理学実験	317		
情報リテラシー	318		
情報PBL	319		
情報処理基礎	319		
情報処理応用	320		
工学専門科目			
応用数理A	321		
応用数理B	321		
応用数理C	322		
応用数理D	322		
アルゴリズムとデータ構造	323		
アセンブリ言語	323		
物質科学Ⅰ	324		
物質科学Ⅱ	324		
原子力概論	325		
量子力学	326		
統計力学	327		
電気回路Ⅰ	327		
電気回路Ⅱ	328		
電磁気学Ⅰ	328		
電磁気学Ⅱ	329		
電子回路Ⅰ	330		
電子回路Ⅱ	330		
デジタル回路	331		
センサ工学	331		
電気機器Ⅰ	332		
電気機器Ⅱ	332		
パワーエレクトロニクス基礎	333		
材料基礎	334		
基礎半導体工学	334		
電子デバイス	335		
機能性材料	335		
システム工学	336		
集積回路工学	336		
工業数学	337		
機構学	337		
材料力学	338		
機械力学	339		
熱力学	339		
機械材料	340		
流体力学	340		
制御工学Ⅰ	341		
制御工学Ⅱ	342		
生産工学	342		
専門英語Ⅰ	343		
専門英語Ⅱ	343		
設計製図	344		
総合システム工学実験Ⅰ	344		

図書館利用案内

<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/>

◇ 開館日・開館時間

曜日	授業期間	春・夏・冬季及び 臨時休業期間	学期末試験期間 (試験1週間前から)
月曜日～金曜日	8:30 - 20:00	9:30 - 17:00	8:30 - 22:00
土曜日	11:00 - 19:00	休館	11:00 - 19:00
日曜日・祝日	休館	休館	11:00 - 19:00

※詳しくは図書館ウェブサイトをご確認ください。

◇ 入館

学生証が図書館利用者票を兼ねています。

入館の際は、学生証を入館ゲートに読み取らせてください。

◇ 借りる・返す・コピーする

資料を借りるときは、借りたい資料に学生証を添えてカウンターへお持ちください。自動貸出機でも手続きが可能です。

[貸出冊数・貸出期間]

学生用図書	研究用図書	雑誌	視聴覚資料
10冊・2週間		5冊・1週間	2巻・3日間

(夏季休業期間には長期貸出を行います。詳細は掲示やウェブサイトでお知らせします)

返すときは、図書館開館中はカウンターへ、閉館中は返却ポストへお返しくください。返却が遅れた場合、返却が完了するまで貸出停止となります。返却期限は必ず守ってください。

館内にコピー機を設置しており、著作権の範囲内で資料のコピーを取ることができます。コピー機の利用には、生協で販売されているコピーカードが必要です。

◇ 取り寄せる

- 本館一分館間図書取り寄せ（無料）

飯塚の情報工学部分館にある資料（雑誌不可）を取り寄せることができます。カウンターでお申し込みください。

- 文献複写・相互貸借（有料）

学内にない資料は、国内や海外の他の図書館等から複写物や図書を取り寄せることができます。（複写料・送料がかかります）

他キャンパスの資料の複写物を取り寄せることもできます。（複写料がかかります。）

◇ レファレンスサービス

資料の探し方や、図書館の利用方法などについて質問や相談に応じています。カウンターへ直接、またはメールでお尋ねください。

E-mail: tos-service@jimu.kyutech.ac.jp 電話 093 (884) 3074

◇ 図書館にない本の購入希望を出す

図書館に必要な本がないときは、購入希望を出すことができます。ウェブサイトのフォームから申し込むか、カウンターに「図書購入リクエスト」を提出してください。

◇ パソコン等の機器を使う

• パソコン・無線 LAN

パソコン 25 台を設置しています。また、無線 LAN (KIT-A, B) が利用できます。

利用には九工大 ID が必要です。

• 機器の貸出

ノートパソコン (22 台) iPad (20 台) 電子辞書 (3 台) が利用できます。カウンターで貸出手続きを行ってください。

※当日館内のみの利用になります。ネットワークは無線 LAN を利用してください。

◇ ラーニングコモンズ

可動式の椅子や机を組み合わせて学生の皆さんのニーズに合わせた学習空間を作り出すことができる「ラーニングコモンズ」を設置しています。授業やイベント、プレゼンテーション、ディスカッション等に利用できるほか、パソコンや AV 機器を使った自学自習も可能です。アクティブラーニングの場として各人に合った使い方を探してみてください。

• ラーニングコモンズサポーター

図書館の使い方のほか、学習や研究などのサポートをおこなう学生スタッフです。

- ラーニングコモンズを利用する学生の皆さんに自分の学習経験や専門分野を活かしてアドバイス
- OPAC やデータベースを使って図書館資料や論文を探すお手伝い
- PC の基本的な操作方法や Word、Excel、PowerPoint 他の操作についてお手伝い

• 学修支援室

教員が時間を決めて駐在して相談を受け付けています。

「授業についていけない」「課題が解けない」「試験が不安」etc……、そんなみなさんのために、学習支援室では、ベテランの先生方が一人ひとりの疑問に丁寧に対応いたします。勉強に不安を感じたら、まずは一度、足を運んでみてください。

◇ ウェブサービス

• マイライブラリ

マイライブラリは図書館の情報に関する、利用者個人のページです。便利な個人サービスが Web 上で利用できます。

利用には九工大 ID が必要です。

[マイライブラリでできること]

- 学外からの文献複写取り寄せや図書借用の申込
- 貸出中資料の予約・予約取消
- 借りている資料、予約している資料の状況照会
- 貸出期間の延長
- 登録した条件にあてはまる新着図書・雑誌の表示
- これまでに借りた資料の表示
- マイフォルダの利用

◇ 九工大図書館蔵書データベース検索 (OPAC)

九工大の図書館にある図書・雑誌・視聴覚資料、また電子ジャーナル等も検索できます。

◇ インターネット上で利用できる資料

九工大図書館では、紙の資料以外にも、インターネットを通じて以下のようなさまざまな資料を提供しています。

すべて図書館ウェブサイトからアクセスできます。

基本的に学内からのみのアクセスとなりますが、九工大 ID でログインすることで、一部を除き学外からも利用することができます。

- 電子ジャーナル 出版社別一覧：<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/?q=list/ejournal>

電子ジャーナルとは、雑誌論文を電子化し、Web 上で全文を読むことができるようにしたものです。

Elsevier 社や Wiley 社などが発行する雑誌の論文を読むことができます。

- データベース 出版社別一覧：<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/?q=list/database>

テーマに沿った雑誌論文や新聞記事、データを探すことができます。

- 電子ブック 出版社別一覧：<https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/?q=list/ebook>

電子版の書籍で、パソコンやスマートフォン、携帯読書端末などのディスプレイで読むことができます。

- ビデオ・オン・デマンド (VOD)

タイトルリスト：https://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/gakunaisenyo/vod_tobata/index.htm

ウェブ上で利用できる映像資料です。 ※学内利用限定

- 九州工業大学機関リポジトリ (Kyutacar) <https://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>

学内で生産された教育・研究成果情報を電子的に蓄積・保存し、無償で学内外に発信・提供するインターネット上のデータベースです。博士論文や教員の論文が収録されています。

学術情報と学習支援ツールの活用法

全学科 1年次 前期 工学基礎科目の「情報リテラシー」の時間に行う。

担当 1) 図書館：学術情報の探し方・集め方

附属図書館業務委託請負業者

2) 学習教育センター ICT 支援部門：e-ラーニング教材の使い方

学習教育センター ICT 支援部門 大西淑雅講師、山口真之介助教

アシスタント 附属図書館の業務委託請負業者及び図書館職員（4～5人）、TA

概要

1. 目的

- 1) 大学の学術情報基盤を支える図書館のサービスを理解し、信頼性のある情報へアクセスすることによって、質の高い学習や研究を行えるようになる。
- 2) 学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習を行うことによって、大学内の自主学習環境を活用する習慣を涵養する。

2. 方法

新入生を対象として、工学基礎科目の情報リテラシーの1コマ90分の時間の中で図書館における情報収集について説明・実習を行う。また、学習教育センター ICT 支援部門による学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの説明、紹介を行う。

- 1) 図書館：学術情報の探し方・集め方（60分）
- 2) 学習教育センター ICT 支援部門：学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習（25分）
- 3) 授業アンケート（5分）

3. 評価

講義終了後、各自で Moodle 上の小テストを受け、その正答率によって評価する。

授業計画

1. 学術情報の探し方・集め方（図書館）

- 1) 授業目的の説明
- 2) レポート作成の基礎知識
 - ・作文とレポートの違い
 - ・レポート・論文作成の手順
- 3) レポートで使える情報＝信頼性の高い情報について知る
 - ・ウェブ上の情報を使う時の注意点
 - ・図書館とウェブ上にある情報の違い
 - ・図書館で探せる情報の種類
- 4) 信頼性の高い情報を集める方法
 - ・図書と論文の違いを知る
 - ・検索ツールを使って、図書や論文を探す
 - ・「参考文献リスト」の見方・書き方
- 5) 課題の説明

2. 各種サービスと自主学習教材の使い方（学習教育センター ICT 支援部門）

1) 学習支援サービス（Moodle）の紹介

- 2014 年度新システム Moodle2.7 を用いた予習・復習の解説
- ID の取り扱いから Moodle の利用について動画教材をベースに解説
- Moodle の操作について実習
- PDF 版「学習支援サービスの手引き」の紹介

2) モバイル端末の活用

- Handbook サービス、インストール方法の説明
- 就職活動対策 SPI、情報処理技術者試験対策（Handbook4 サービスの利用）
- TOEIC アプリケーションの紹介
- 無線 LAN サービスの登録と利用法

3) 自主学習（e-ラーニング）とグループ学習の支援ツールの紹介

- 英語自主学習「ALC ネットアカデミー」の使い方
- Web 会議システムの使い方

4) 動画教材を用いた自主学習（復習）と Moodle による小テスト回答

- 講義終了後、Moodle を用いた小テストの受け方について学習する
- 情報倫理ビデオを講義時間外に視聴して、Moodle の小テストを受けてもらう
- 図書館サービスに関する Moodle の小テストを受けてもらう（回答期間 2 週間程度）
- 小テストの点数で評価する

3. 授業の進め方

端末室でのインターネットを利用した実習形式

教科書・参考書

図書館作成のテキスト・演習問題他、『参考文献の役割と書き方』他

備考

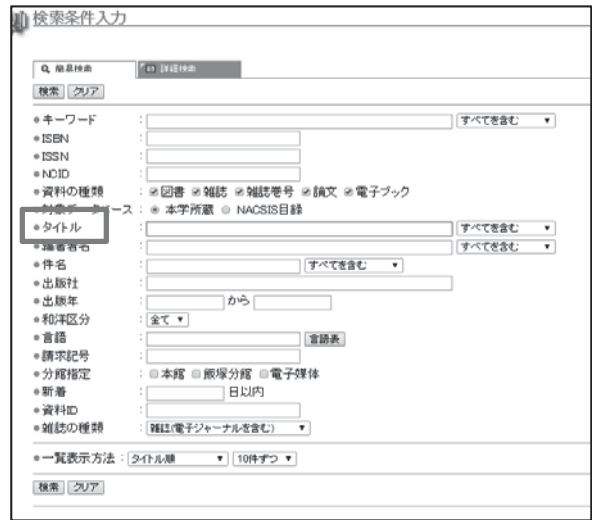
Moodle による授業アンケートを実施する。

附属図書館蔵書検索方法

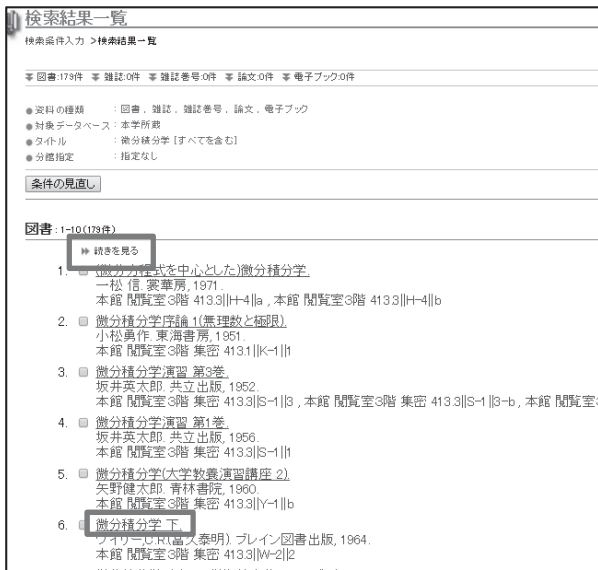
① 九州工業大学図書館ウェブサイトにて九州工業大学 OPAC をクリックする。



② 検索条件を入力する。



③ 探している図書ををクリックする。
ない場合は「続きを見る」。



④ 所在・請求記号を確認する。

